

**今こそ成長するとき—58 期生—**

大学入学共通テスト受付最終日時点での出願者数が479,348人(昨年度確定人数530,367人)と発表されました。また、文部科学省は国立82大学と公立96大学をあわせて12万8,182人募集すると発表しました。様々な数字を意識しつつ、受験を実感していきましょう。

ところで、9歳～11歳は、神経系の発達に伴い、スポーツなどにおいて技術力が大きく伸びるため、ゴールデンエイジと呼ばれます。3年生にも同様の時期があります。10月中旬～12月中旬の約2ヶ月間です。この時期になると、こつこつと積み上げられた断片的な知識が体系的な知識に変化し、問題を解く能力が高まると考えられています。また、授業が受験に向けた演習へと切り替わっていくこの時期は、分からないことが具体化されてきます。解決すべきことが見えるようになり、さらに学ぶ意欲も強くなっていきます。

よく言われますが、受験は団体戦です。個々人のやる気が、クラスや学年のモチベーションアップにつながります。各教科のライバル関係も相乗効果をもたらしてくれます。58期が一丸となって今こそ成長しましょう。

入試情報

受験に関する最新情報を知ることが重要です。共通テストでは、大学によってReadingとListeningの配点の比率が異なることや、各科目の傾斜配点が重要ですが、そこについては各自で調べましょう。ここでは、学部新設や改組、定員の変更等について紹介します。

一橋大学	ソーシャル・データサイエンス部新設。
東京学芸大学	教育学部で初等・中等・特別支援・養護を統合。コース別に改組。
広島大学	情報科学の定員80人→150人に大幅増。教育学部の一部で後期廃止の動きがあり、定員445人→425人に減。
鹿児島大学	理学療法学科で、共通テスト理科2科目→1科目へ減。

なお、「総合型」「学校推薦型」選抜の枠が、国公立大学の定員全体に対して22.5%になったことも文部科学省から発表されています。自分の希望する大学や学部学科を様々な角度から捉えましょう。受験のイメージを具体化し、受験大学選択や学習バランスの戦略を立てて実行に移しましょう。

志望大学選択 —59 期生—

進路志望調査用紙の裏面の記入は進んでいるでしょうか。今年度中に志望大学を、できれば学部学科まで絞り込みましょう。仮に学科まで決まれば、受験科目が決定するため、2年生の冬のうちに、3月の自宅学習期間に、春休みに、自分の課題に向き合うことができます。ただし、例えば「数学が苦手だから、数学の配点が高い大学を避ける」と考えるのではなく、自分の課題に早く向き合うことで、対応していくという考え方を持ちましょう。他にも、「英語が好きだから外国語学部/国際関係学部」という選択にも注意が必要です。カリキュラムや留学制度など、どのようなスキルを身に付けることができるのか、どのような経験ができるのか、複数大学・学部・学科について詳しく調べ、比較検討する時間は十分あります。

文理選択 —60 期生—

後期始業式で大脇校長が「静の後期」について話してくださいました。60期生は、これから大きな決断をしなければなりません。心静かに、しっかりと将来へ想いを馳せながら文理選択をしてください。ちなみに、「1年生の秋時点で成績のよい生徒の91%が文理を決定している」というデータがあります。早期の方向性決定は、自身の学力にも直結します。

文理を考えるときに、例えば、「数学が苦手だから文系」といった選び方は避けましょう。対応する時間が2年以上あるからです。また、文系だからといって、数学や理科を疎かにしてはいけません。文系学部でも入試に数学を課す大学があることや、「文理融合型」の学部学科も存在しているからです。『キャリアプランニングノート』の24頁以降をしっかりと読み込みましょう。81頁のワークも活用しましょう。他者からの情報や自分の考えを文字として見えるようにすると、考えもまとまりやすくなります。文理選択においては、「自分の希望や適性を正確に理解する」ことが重要です。ありきたりですが、情報を集め、よく考え、悔いのない選択をしましょう。

★「赤本」貸し出しについて

- * 貸出期間は1泊までです。
- * 借りた翌朝1限までに返却してください。
- * 破損等に十分気をつけましょう。

共通テストまであと75日。頑張り3年生!

選択について

1年4組 担任 太田 亮

1年生の皆さん、今、文理選択について悩んでいるところでしょうか？今月の進路だよりでは文理選択や大学、職業の選択について、皆さんに伝えたいことを私の知識や経験を交えて話します。

① 文理選択について

文理選択をすることによって、2、3年生になってから学校で学習することを決定します。例えば、数学に視点を置くと理系なら数学Ⅲを学習しますが、文系では数学Ⅲは学習しません。鹿児島大学理学部数理情報科学科を受験する際には数学Ⅲが必要になりますので、理系に進学する必要があります。これはわかりやすい例ですが、理科や地歴公民の受験科目やその数など、同じような学部でも大学によって変わることがあります。したがって、受験科目については、きちんと調べておく必要があります。

② 大学や職業の選択について

私は中学生の頃、中学校の教員になりたいと考えていました。高校生になり、教員になるため（教員免許を取るため）には必ずしも教育学部に進学する必要がないことを知り、当時好きだった数学を使って進学ができる鹿児島大学理学部数理情報科学科を目指すことにしました。この自分の進路選択について、今だから思うことが3つあります。

1つ目は、大学受験への取り組み方についてです。鹿児島大学数理情報科学科の2次試験での受験科目を調べると、当時は数学が400点のみで、数学さえやっておけばなんとかなるだろうと楽観的に考えていたところがありました。全教科まんべんなく勉強をやっていなかったため、模試では数学以外は点数を取ることではできませんでした。しかし、センター試験（現在の共通テスト）本番ではなぜかそれまでの模試よりも点数を取れてしまいました。このラッキーで合格することができましたが、それまでの模試の通り点数がとれていなかったらと思うとゾッとします。根拠のない自信を持たずに日頃から準備を重ねて試験に臨むべきだと思います。

2つ目は、難関大学を目指していたらどうなっていたのだろうかということです。1つ目で書いた通り、当時の鹿児島大学理学部数理情報科学科の2次試験は数学のみでした。他の大学について調べると、より偏差値の高い大学では英語も必要でした。英語が苦手だった私は、英語から逃げ、強い意志もなく鹿児島大学を志望していました。逃げずに難関大学を目指していたら、どのような人生になっていたのだろうかと思います。

3つ目は、そもそも教員以外の道を考えていたらどうなっていたのだろうかということです。先に言っておきますが、教員の道に進んだことに対して後悔はありません。しかし、教員の道しか考えずに他の選択肢を探さなかったことに対しては後悔があります。私は犬や動物が好きだったり、商売に興味があったりしたのに、それらに関する学部学科については一切調べませんでした。今思えば色々な選択肢を用意したうえで、教員の道を選ぶべきだったと思います。

教育相談を行っている時、①で述べたものを調べていない人が多いです。調べ方がわからない場合は担任、副担任、教科担任の先生など、近くの先生に相談してみてください。数年後、皆さんが後悔のない進路を選択したと言えることを祈っています。

「孜孜不倦」

2年4組 副担任 元 慎太郎

つい先日、ある人と某メッセージアプリにて連絡先を交換した際にその人のプロフィールにあった言葉です。はじめは読み方が分からなくて調べた言葉でしたが、意味を調べてとてもいい言葉だなと感じたので皆さんに紹介します。

^し^し
孜孜…^し労を惜しまず努力を続ける様子

^{けん}
倦 …^{けん}思うように進まずいやになる

「^し孜^しとして^{けん}倦^まず」とも読むようで、上にある2つの単語の意味をつなぎ合わせると、途中でやめることなく、こつこつと努力をし続けるという意味になります。

私は大学4年生の頃から今年に至るまである試験を受け続けていました。昨年まで通算7回の不合格通知を受け、今年晴れて合格通知を手にすることができました。たくさんの人の協力を得て掴んだ「合格」であります。1番の要因は毎年見てきた「不合格」という現実をめげずに努力を続けたことにあったと考えています。

言わずと知れた大企業「京セラ」を設立した鹿児島の人、稲盛和夫さんの著書『働き方』のなかに、「『もうダメだ』というときに仕事の始まり」という話があります。そこには有名大企業の研究者たちに講演をした後の質疑応答の場面が書かれています。

「京セラの研究開発の成功率はどれくらい？」という質問に対し、稲盛さんが「京セラでは手がけた研究開発は百パーセント成功させます」と回答すると、「そんなバカなことはあり得ない」と反論が返ってきたそうです。そこで稲盛さんは次のように返答します。「研究開発は成功するまでやり続けますので、失敗に終わるということがないのです」と。

「もう無理だ」と思った時点を終点とせず、仕事の再スタート地点と考え、成功を手にするまでは絶対にあきらめない粘り強さ。自分に限界を設けない、あくなき挑戦心—それこそがピンチをチャンスに変え、失敗さえ成功に結びつけることを可能とするのです。

(出典：稲盛和夫『働き方』三笠書房)

思い通りの結果が出ない期間はとてもつらい思いもしますが、その結果を受け止め、次の機会を見据えて努力することを決心した人間は強く、成功を掴むことができると思います。

望んだ結果ばかりが得られる高校生活ではないと思います。「^し孜^し不^{けん}倦」^し、めげずに努力を重ね、より良い卒業後の進路を実現してくれることを期待します。

先日、たまたま大学4年の学生さんたちと話す機会がありましたので、少しだけ紹介しますね。

私：皆さんは、今、どんな学生生活を送っていますか。

学生：私は、大学院へ進学しますので、そのために今の研究を掘り下げています。私は、教職を目指して研究と採用試験の勉強を両立させています。私は大学で学んだことを活かして、大企業ではなくあえて中小企業で製品の研究開発をしたいと思っています。

私：高校3年生の中には、やりたいことが見つからず進路に迷っている生徒もいますが何かアドバイスがありますか。

学生：最初から、目標をもって入学する人もいますが、大学生活の4年間で様々な人々と出会い、いろいろな分野を学ぶ中で視野を広げ、自分の進むべき道を見つけていく人もいます。また、興味関心の対象が入学時から変化し、別の分野にも広げていく人など多様です。いろいろな進路選択がある中で、4年間をかけて自分探しができるという意味では大学進学もお勧めの一つです。

私：大学進学を目指す高校3年生が今、学んでおいた方がいいことがあったら教えてください。

学生：共通テストを受験する人は、それに向けて一所懸命に集中してください。授業を大切にしてください。まずは、共通テストでしっかり得点できるように準備することが何よりも大切だと思います。

私：大学生活で特に重要だと思うことは何ですか。

学生：自分で考えて課題を見つけ、その解決に向けて努力できる人は、充実した学生生活を送れますが、与えられたものをただ日々こなすだけの生活では充実感は得られないかもしれません。何をどう学ぶか、どのように発信していくかといった主体的な姿勢が大事になります。

大学4年間はモラトリアム期で「自分は何者であるか」という問いにしっかりと向き合い、アイデンティティ確立のためにじっくりと試行錯誤できる時期、社会に出る前の猶予期間であると、今回の会話を通して改めて思うことでした。今、進路に迷い悶々としている人にとっては、一見「停滞している」「怠けている」ようにも思えるこの時期は、これからの皆さんの成長にとって大事な時期なのかもしれませんね。とは言っても受験はすぐそこに。悩みながらも準備の方も何とか進めていきましょう。周囲の人にも相談してみてくださいね。

大学生の堂々と将来の夢を語る様子を見て、「最近の若者は一所懸命に生きている」と感心しました。大学卒業を目前にして自分の考えをしっかりともち努力している姿を頼もしく思いましたし、私が学生の時よりもずっと深く人生を考えていることに日本の未来も捨てたものではないと希望をもちました。皆さんも数年後には「自分とは何か」と自身に問いかけ、未見の我を求めて人生彷徨をしていることだろうと思います。皆さんの未来に期待しています。

今回は、たまたま話を聞いたのが大学生でしたが、いろいろな進路選択があっても当然ですしそれぞれに良さがあることを添えておきます。

さあ、今が踏ん張りどころ！58期生、未来を切り拓こう!!